

氏名	石森 大知 (いしもり だいち) 教授
こんな研究をしています	文化人類学、オセアニア地域研究。これまで南太平洋のソロモン諸島で長期間のフィールドワークを行ってきました。主な研究テーマは宗教運動、キリスト教信仰、社会・文化変容、地域開発、民族・宗教紛争などに関することです。また、宗教と公共性の問題や、太平洋における非キリスト教（イスラーム、パハーイー教など）への改宗の動きについても興味をもっています。
こんな成果を挙げています	<p>【著書】</p> <p>吉岡政徳・石森大知(編) 2025『南太平洋を知るための60章——メラネシア ポリネシア【第2版】』明石書店。</p> <p>石森大知・黒崎岳大(編) 2023『シリーズ地域研究のすすめ4 ようこそオセアニア世界へ』昭和堂。</p> <p>石森大知・丹羽典生(編) 2019『宗教と開発の人類学——グローバル化するポスト世俗主義と開発言説』春風社。</p> <p>【雑誌論文】</p> <p>石森大知 2023「キリスト教の人類学」とモスコ・ロビンス論争の批判的検討——メラネシア研究の視点から読み解く『異文化』24:31-47。</p> <p>石森大知 2019「民族性から土着性へ——ソロモン諸島紛争におけるイサタンブ解放運動の一側面」『国際文化学研究所』53:1-27。</p>
ほかに、こんなジャンルに関心をもっています	最近、関心をもっているテーマは「キリスト教の人類学」です。なかでも、植民地時代にもたらされたキリスト教的な組織や制度などの外面的な装置・配置が、今を生きるソロモン諸島の人々の生活様式や行動規範にどのような影響を与えているのか調査・研究を進めたいと考えています。
こんな授業を行なっています	私は太平洋の島々の研究をしていますが、授業において「太平洋限定」というわけではもちろんありません。異文化、あるいは自己と他者の文化的な差異などに興味をもち、文化人類学のものの見方やフィールドワークに基づく質的調査に関心がある院生を広く指導したいと思っています。授業では基礎知識を補強するとともに、発展、応用可能となるように問題を問いかけます。そして個々の関心を深め、多角的な視野から研究テーマを発展させ、共感性を高められるよう指導します。
学会や社会でこんな活動をしています	<p>【受賞歴】第7回国際宗教研究所賞(2012年、国際宗教研究所)、第11回日本オセアニア学会賞(2012年、日本オセアニア学会)を受賞しています。また、「学生が選ぶベストティーチャー賞」(2017年、武蔵大学)の受賞経験があります。</p> <p>【委員歴等】2014年～2016年まで、文部科学省研究振興局・学術調査官をつとめ、研究者の立場から、学術研究および科学研究費補助事業の振興のための調査、指導や助言を行いました。</p>
私が思う多文化的かつ、インターカルチュラルな人物	私の調査地であるソロモン諸島ニュージョージア島の人びとは、異なる言語集団間でさまざまな交換を行いながら共存してきました。その彼らが話し合う際、クサゲの人はクサゲ語を、ホアヴァの人はホアヴァ語を用い、互いに自らの言語を保ちながら、相手の言葉に耳を傾け理解しようとし、そこには自文化への誇りと異文化(他者)への敬意、対等性を重んじる姿勢が見て取れます。こうした、いわゆる「名もなき人びと」による相対主義的实践は、注目に値するでしょう。